

ロータリー第2760地区ガバナーに酒井 法丈氏が就任

変革と継続の理想的なバランスで「無意識の壁」を取り除こう



酒井 法丈（さかい・のりたけ）1957年8月豊田市生まれ。82年明治大卒。85年豊田警備保障入社、98年同社代表取締役就任。2012年豊田東海警備に社名変更。12年から愛知県警備業協会副会長。2021-22年度ガバナーノミネー（ガバナー候補）、2022-23年度ガバナーエレクト（次期ガバナー）になり、7月から1年間、地区ガバナーを務める。

国際ロータリー第2760地区（愛知県全域）の2023年-24年度ガバナーに豊田ロータリークラブの酒井法丈さんが就任した。ガバナーは地区リーダーで、国際ロータリーの方針を県内84の地域クラブに伝え、地区をまとめていく大役だ。第2760地区のロータリアンは約4,600人。国内屈指の大規模地区の運営を担う酒井さんは「変革と継続の理想的なバランスに配慮し、活動の効果を検証しつつ様々な課題に対応していきたい」と抱負を語った。

（聞き手は塚本隆編集長）

塚本 ガバナーご就任おめでとうございます。所感をお聞かせください。

酒井 国際ロータリーの方針を各地域に分かりやすく説明し、理解してもらうよう指導していくのが私の役割です。愛知は8分区に分かれています。それぞれにガバナー補佐がいて支えられています。

——**地区、日本、国際ロータリーの現状の規模を教えてください。**

酒井 世界530地区で構成され、世界の会員は37,000クラブ、約115万人、日本では2,200クラブ、約85,000人です。日本は10万人から、愛知は5,000人から4,600人へと減少してきているのが現状です。

——**減少の理由は何ですか。会員をどう増やしていきますか。**

酒井 減少理由は経済的な面が大きいです

ね。世代交代の時期でもあり、会員が入れ替わる過渡期かもしれませんが、人口減少と経済停滞の影響は感じます。国際ロータリーも女性会員の割合を現状の30%から増やそうとしていますし、日本は現在6%程度、愛知は3%未満で、少ないと思っています。ただ、性別よりもロータリアンとしての適性があれば誰であれ歓迎すべきで、私は各クラブの文化に合った形で会員増を図っていただきたいと考えています。

——**次年度の方針を説明してください。**

酒井 今年は特に、変革と継続の理想的なバランスが大事だという考え方が強調されています。コロナ禍や国際紛争、戦争で世界が疲弊している中、私たちを取り巻く環境が大きく変わりました。テクノロジーや多様性に対する考え方など世界の急速な変化に対応するためにはロータリー自身も変わっていかなければなりません。

ん。新しいテーマとして心の健康、メンタルヘルス対策にも力を入れていこうとしています。継続で言えば、国際ロータリーは120年以上、日本も110年近い親睦と奉仕の歴史があります。その上で、最近では35年以上前から取り組んでいるポリオ（脊髄性小児麻痺）根絶のためのワクチン推進や3年前からの女兒エンパワメントがあります。ポリオはあと少しで根絶できる段階であり、エンパワメントは女兒が自律的な力をつけるよう教育環境や待遇を改善することです。女性の活躍で世界経済は20%伸びると言われています。

——**ロータリーで近年推奨されている「DEI」とは何ですか。**

酒井 Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括）の頭文字で、多様性を認め、公平性をもって、尊重され個々の能力が発揮できる環境を追求していこうというものです。

——**地区ロータリーの課題をお話してください。**

酒井 まず、ポリオ根絶や女兒のエンパワメントについて地区内に浸透させたいと思っています。課題としてはロータリーの発展の障害になっている3つの壁があると思っています。1つは平和より自分の生活と、平和に対する意識が薄いことです。2つ目は活動の検証がされていないことです。愛知には84の地域クラブがあり、それぞれ独自に奉仕活動していますが、社会にどのような影響をもたらしたか、効果を正しく検証できていません。寄付したお金がどう使われたのか知らずに、いわばやりっ放しになっています。3つ目は先ほどのDEIですが、多様性を頭で分かっている心の中で無意識に壁を作っていないか、という点です。経験年数などで判断し、若者の考えを受け入れないこともあり、これではロータリーは発展しません。会員の減少対策の前に、我々の活動を見直し、まず壁を取り払うことが大事だと思っています。

——**課題解決へ向けた地区の方針は。**

酒井 平和を語り、活動の効果を検証し、多

様性、公平性などを実行していきます。各クラブには独自の文化があり、それぞれの方法を考えてほしいと思います。すべての会員がロータリアンとしての喜びや誇りを自分のものにして、信頼される団体へと高めていただきたいと思います。各クラブも地域内でブランド力を高めて、存在価値を見出してほしいですね。陰徳といえますか、自慢話をしないことを美徳とせず、大いに議論して社会へアピールしていきたい。そうした取り組みが会員の減少を食い止め、増加に転じる力になると思っています。

——**地区のこの1年間の活動方針で決まっていることは。**

酒井 ポリオ根絶に向けて10月23日～27日に関連イベントを計画しています。84クラブが根絶につながる例会を開いて意識づけをしてもらうようお願いしています。27日には地区を挙げてポリオチャリティゴルフコンペを行います。来年4月には10年間続けてきた地区行事の名称を「ロータリー・フードフェスティバル」と変えてポリオ根絶と公共イメージの向上に努める予定です。感謝を込めたイベントで、ロータリアンが企画して、寄付、収益金はすべてポリオ根絶に使います。また、コロナ禍対応や戦況を見ながらウクライナからの避難者支援などは必要に応じて検討したいと思います。

——**1年間の目標は何ですか。**

酒井 私自身、ロータリークラブが好きで、活動に関わり26年になります。好きな仲間との活動を通して世界が見えてきました。会員が自分のクラブを好きになり、愛着心を持つことが、プライドにつながると信じています。地区内では海洋ごみを含めた環境問題を見直していきたいですね。この1年はロータリーと過ごす毎日になります。これまで毎週末に楽しんできたゴルフも我慢ですね。ガバナーは1人では何もできません。健康に留意して周囲の方に支えてもらいながら全力疾走するつもりです。

——**ありがとうございました。**